

第3回「送配電コンプライアンス委員会」議事要旨

1. 日時

2023年4月3日（月）16:00～17:20

1. 委員

一般送配電事業者（10社）の社長、送配電網協議会事務局長、外部より招聘した弁護士および公認会計士（2名）

2. 議事要旨

（1）システムの分割方法等の検討について

- ・ 3月31日の経済産業省 電力・ガス取引監視等委員会の一般送配電事業者による非公開情報の漏えい事案に係る経済産業大臣への勧告および報告書の内容を踏まえて、システムの物理分割に向けて、各社のシステム構成が異なり多様な機能がある中で、システムごとの優先順位および分割の範囲について各社で引き続き詳細検討することとした。
- ・ アクセス制御やIDカード管理の厳格化については、既に規程類等のルールがあったにも関わらず、着実に実行されていないことに根本的な原因があったケースもあると考えるとの意見があり、再発防止に向けて実行性のある取組みかをどうかを見極めながら、より具体的な検討を進めることとした。
- ・ 災害時の適切な情報開示については、災害時の電話対応等における一般送配電事業者の人手不足を受けた特定関係事業者の応援者への情報開示の内容、および平常時も含めた情報アクセス向上の両面の論点を整理したうえで、夜間・休日の停電発生時も含め現状と同等のサービスレベルを維持可能かのリスク評価も行い検討を進めることとした。
- ・ 災害発生時にスムーズに情報提供、連携を行うためにも、災害時に情報開示する内容や開示するタイミングについて、引き続き具体的な整理を進めることとした。

（2）行為規制遵守にかかる社内体制等の検討について

- ・ 一般送配電事業者各社が三線モデルをベースに組織変革を進める中で、屋上屋を架すように非効率な組織となり、管理したいことに対して管理しきれず実効性が伴わないリスクがあることから、自社組織の現状課題を徹底的に追及し理解した上で、時間軸を考慮した各社ごとのアクションプランを実行する必要があることについて認識共有した。

- ・ 効率的・複眼的に各社取組をチェックする方法として、送配電業界内での情報共有とともに各社間での相互チェックの枠組みが有効との意見があり、引き続き、効率的かつ実効的な方法について深掘りし整理を進めることとした。
- ・ コンプライアンス体制の効率化・実効化のための概念的フレームワークであるピラミッドモデルの考え方に基づくと、ピラミッドの頂点にある「経営者の姿勢」が重要であり、「経営トップからの徹底的なコンプライアンス遵守のメッセージ発信」の頻度と伝達方法を検討するとともに、ピラミッドの底辺にある「懲罰を含めた徹底的な監査・チェック」を企業文化として醸成することが重要との意見があり、本意見を十分考慮の上、今後の体制のさらなる改善に向け検討することとした。
- ・ 現場従業員も含めた全従業員が、行為規制について理解を深め、どのような点に法令違反の虞があるかを把握するためには、社内ルールや教育・研修を検討する法務・行為規制担当部門が、現場の意見を吸い上げ、頻繁かつ抵抗感なく情報共有出来る仕組み・環境作りが有用であるとの意見があり、本意見を十分考慮の上、各社における再発防止に向けた取組を進めることとした。

以 上